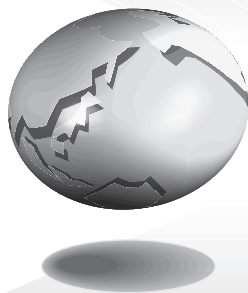


国際研究集会派遣報告



平成 28 年度 国際研究集会 (海外後期) 派遣会員報告書

European Association of Nuclear Medicine 2016 (EANM'16) に参加して

派遣員 松友紀和 杏林大学

派遣国際研究集会：European Association of Nuclear Medicine 2016

開催場所：Barcelona, Spain

開催期間：October 15-19, 2016

はじめに

2016年10月15～19日にスペインのバルセロナで開催された European Association of Nuclear Medicine 2016 (EANM'16) : 29th Annual Congress に平成28年度後期国際研究集会派遣会員として参加する機会を得たので、発表した演題内容と学会の印象について報告する。

発表内容

私のセッションは、Technologist Oral Presentations 1で、「Radiation dose reduction using a bismuth-coated latex shield over the eye lens in Brain SPECT/CT」というタイトルで発表を行った。この研究では、頭部 single photon emission computed tomography (SPECT)/CT 検査における水晶体の被ばく低減を目的に、海外の診断CTで用いられている水晶体防護シートがSPECT/CTに適応可能かどうか検証を行った。SPECT/CTでは、CT画像を減弱補正に用いるため、減弱補正の精度を担保しつつ、被ばく低減が可能な防護シートを用いる必要がある。さまざまな厚みを持つ防護シートを用いて検証を行った結果、0.15 mm 鉛等価のビスマスシートを用いることで、補正精度やSPECTの画質に影響を与えることなく、水晶体の被ばく線量を約60%低減可能であった。会場からの質疑として、「ポジショニングを工夫することでさらに低減可能では？」との意見があり、今後の検討課題にしたいと思った。

EANM'16 の印象

EANMへの参加は初めてだったため、これまでに参加経験のある米国核医学会 (SNMMI) との違い (演題内容や学会会場の雰囲気など) を感じることができた。特に言語に関しては、英語を母国語としていない参加者が多いため、質問や講演が聞き取りやすいよう、ゆっくりはっきり話してくれているのが好印象だった。演題内容についてはSNMMIと同様に新薬に関する内容が多かったが、オランダの放射線技師が中心になって行っているヨーロッパの多施設共同研究では、日本 (金沢大学) が開発したキャリブレーションファントムが使用されており、大変興味深い議論が行われていた。



Photo 口述発表会場にて

謝 辞

EANM'16 への参加に際し，国際研究集会派遣会員として助成いただいた日本放射線技術学会の小倉明夫代表理事をはじめ国際戦略委員会，会員の皆様に厚く

御礼申し上げます。また，参加にあたりご協力いただいた杏林大学保健学部診療放射線技術学科の皆様にも深く感謝いたします。